

創薬エコシステムにおける 量子コンピューティングの応用

Quapp株式会社



設立:

2025年7月(CitynowAsia株式会社より事業承継)

事業内容:

- 1.量子コンピューティングプラットフォーム「Quapp.cloud」運営事業
- 2.量子アプリケーション開発事業
- 3.量子技術関連の教育事業

主な参画体:

2025年10月 SQAI(サステナブル量子AI研究拠点)
Q-STAR(一般社団法人 量子技術による新産業創出協議会)

非感染性疾患(NCDs:Non-communicable Diseases)は、現在、世界の死因の約74%を占め、年間4,100万人が命を落としている最も重大な健康課題です。以下に主な国別の事例をまとめます。

主な国別的心血管疾患・がん・糖尿病の死亡率・罹患率のまとめ

国名	① 心血管疾患死亡率 (※1)	② がん罹患率(※2)	③ 糖尿病有病率 (※3)	特徴・備考
日本	低(約70-80)	高(約300)	中(約6-7%)	世界トップクラスの長寿国だが、高齢化によりがん患者数が多い。
米国	中(約130)	極めて高い (約360)	高(約11-13%)	肥満率の高さが全てのNCDリスクを押し上げている。
中国	中~高(約200)	中(約200)	高(約10-12%)	絶対数が世界最大。急速な生活習慣の変化で糖尿病が激増。
ロシア	極めて高い(約350+)	中	中	心血管疾患による死亡率が先進国・準先進国の中で突出して高い。

(※1) 心血管死亡率: 人口10万人対の年齢調整死亡率(推定値)。

(※2) がん罹患率: 人口10万人対の年齢調整罹患率(ASR)。

(※3) 糖尿病有病率: 20~79歳成人に占める割合。

WHO, GLOBOCAN 2022, IDF Diabetes Atlas
2021/2024等

ベトナムでは現在急速な経済成長に伴い、糖尿病や心血管疾患のリスクが急増中であり、がんの死亡率が比較的に高いという傾向があります。

ベトナムの心血管疾患・がん・糖尿病の死亡率・罹患率のまとめ

項目	指標	日本との比較・特徴
心血管疾患	死亡率:高 (全死因の約31%)	日本と同じく「脳卒中」による死亡が非常に多いのが特徴。
がん	死亡率:高 (発生数に対し死亡数が多い)	肝がん・肺がんが死因の上位。発見が遅れるケースが多く、生存率が低め。
糖尿病	有病率:中 (全死因の約6.1%)	現在は日本と同程度だが、都市部を中心に急増傾向にある。

Noncommunicable Diseases Country Profiles 2018 / 2022
(ベトナム版)
Vietnam Fact Sheet 2022, IDF Diabetes Atlas, 10th edition
(2021)